

さいたま市立上小小学校 9月号 平成29年8月29日

**上小小だより**

〒330-0855 さいたま市大宮区上小町 1337-1

HP <http://kamiko-e.saitama-city.ed.jp/>

TEL : 048-644-6251

教育目標

- ◎ 心豊かな子
- ◎ 進んで学ぶ子
- ◎ 健康な子

定 着

校 長 小林 真理子

長い夏休みが終わり、一回り大きく成長した子どもたちが学校に戻ってきました。2学期も子どもたちが楽しく学校生活を送れるよう、教職員一同全力で取り組んでまいります。

さて、機会があって先日、ある講演を聴くことができました。講師は東京大学薬学部教授の池谷裕二（いけがや ゆうじ）先生。演題は「脳から見た教育」です。今号では紙面をお借りして、新進気鋭の脳科学者のお話の一部を紹介させていただきます。

その1—ネズミに学ぶ教訓— ネズミが迷路を通過して餌までたどり着く速さの実験から、「失敗は成功のもと、いろいろな失敗をしよう」と。そして、失敗に負けない熱意の大切さ、熱意が見えない学力であることを繰り返しおっしゃっていました。

その2—学習は辛いほうが深く定着しやすい— 「最小限の努力で最大限の成果を得たいと思っている人は挙手を」という池谷先生の言葉に、私は迷うことなく手を挙げました。すると先生からは、「学習において効率性や即効性は期待できません」とバッサリ。学習は辛いほうが深く定着しやすいとのこと。見て覚えることより書いて覚えるほうがよく、読みにくいテキストほど理解が進み記憶に残ること。これらは、科学的にも検証されているそうです。

その3—未来に備える知識欲を— 「AI（人口頭脳）の発達で、創造・芸術・ひらめき・気遣いなど、今は人間にしかできないと思われていることをAIが代替することが可能となる時代が来るでしょう。人間の寿命も益々伸びていくでしょう。小学生の65%は将来、現在ない職業に就くと言われていています。子どもたちには、どのような時代がやってきても対応できる柔軟性を備えておいて欲しい。そのためにも、未来に備える知識欲、知ることは楽しいことだと感じられる子どもに育てて欲しい」

卑近な例で恐縮ですが、私はこの夏、屋久島へ縄文杉に会いに行きました。往復11時間、22キロメートルのトレッキングです。思わず四つん這いになるほど急な斜面もありましたが、登った者だけが味わうことのできる達成感と喜びを得ることができました。池谷先生が、「学習は辛いほうが深く定着しやすい」と話されたことは、生活の中の様々な場面で言えることかもしれません。

定着のためには、易しさや分かりやすさばかりでなく、厳しさや辛さも大切にしていけることが必要・・・学習とは、何と奥の深いことでしょう。

今学期も、保護者・地域の皆様の変わらぬご支援とご協力をどうぞよろしくお願いたします。